

研修だより NO.6

世羅町立せらひがし小学校

令和7年12月10日

《研究主題》

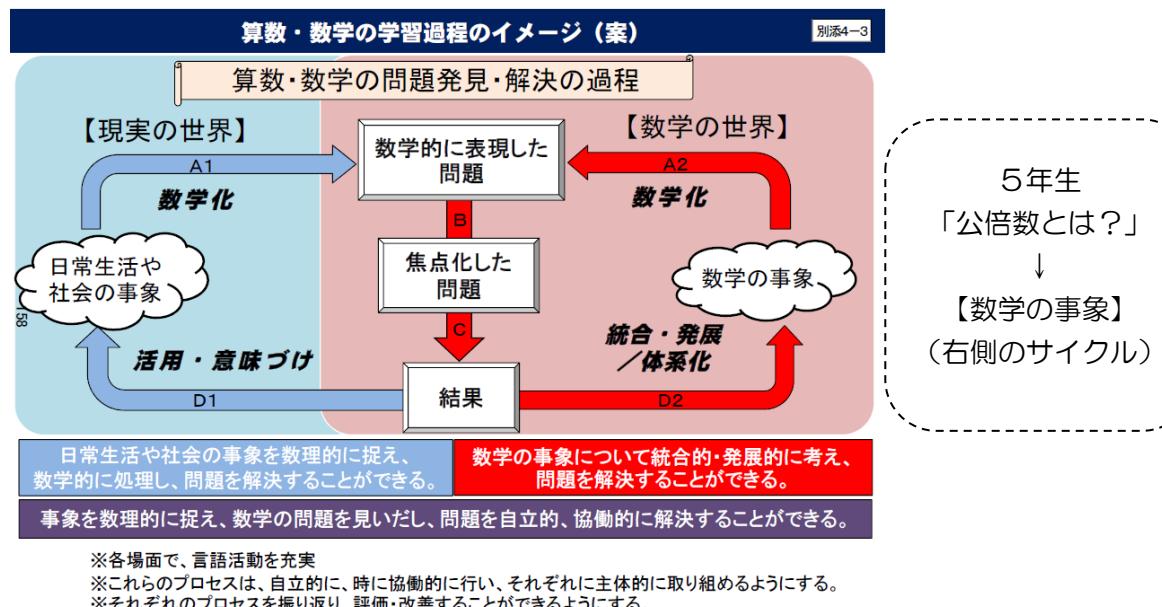
児童自ら学びを深める算数科授業の創造 ～協働的な学びを軸とした個別最適な学びの取組を通して～

児童自ら「算数らしく学ぶ」ために（筑波大学附属小学校 算数部 田中英海 先生）

9月19日（金）、筑波大学附属小学校 田中英海先生をお招きし、3年生と5年生の授業参観をしていただきました。今年度は「算数らしく学ぶ子どもの育成」についてご講話をいただきました。

「算数らしく学ぶ」とは？～先生方に考えていただきました～

- 既習事項を使って予想し、説明する（系統性）
- 統合的に考える
- 図や式などを使って表現する
- 子どもたちが自ら知識を創造する



（算数・数学ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）より）

授業づくりで意識すべきことは・・・

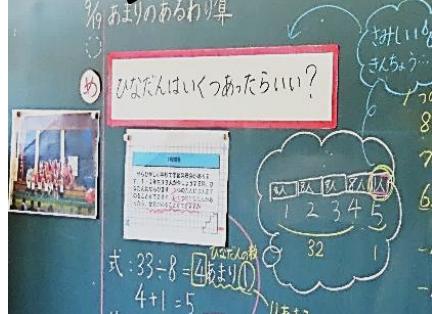
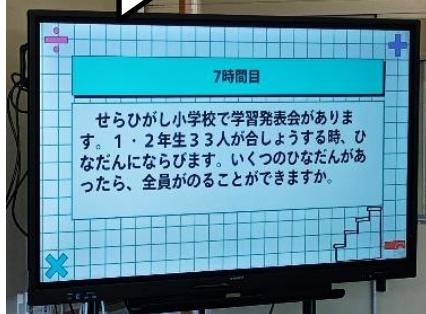
- 児童の反応を見ながら、めあてを柔軟に変えていく（めあてを複数想定しておく）
- 単元のまとめには日常問題を設定する
- 日々の授業の中で多様な求め方を共有する良さに気付かせる
(答えの妥当性が上がる、どんな場合にでも共通する見方・考え方へ気付くことができる)

算数科第3学年「わり算を考えよう」～生活場面にもどって考える～

「学習発表会でのひな壇の並び方は？」
⇒身近な場面から問題を設定することで、関心を持って意欲的に取り組むことができる。

未完成の問題文を提示
⇒問題解決のために必要な情報は何か自分たちで判断する力の向上が図れる。

児童と一緒にめあてをつくる
⇒児童の実態や困り感に合わせた課題解決の見通しを持つことができる。



図に表した児童のノートをみんなで見る
⇒新たな考え方を知ることができる。
⇒図のかき方を学ぶことができる。

個別の時間での思考方法をCanvaとノートから選択できるようにする
⇒ICTで示された図をヒントに自分の考えを持つことができる。

課題と改善策(グループ協議・田中先生から)

●児童自ら「図を書いてみたい」と思えるようにするために

⇒「図はかきますか」と質問した児童に対して「どうして書きたくなったの？」と問い合わせことで、図などで整理する良さに児童が気付く。
⇒「なぜ、いろいろな考え方方が出てくるのだろう？分かるように説明するためにはどうしたらいいだろう？」と問い合わせ返すことで、「図を書くと分かりやすい」という声が出てくる。

●想定外の意見への対応

⇒「何かにつながるかもしれないね」と声をかけ、板書の隅に残しておく。【パーキングロット】

●オーブンエンドの問題に対する「まとめ」

⇒いろんな方法でやってみた感想を書いて交流する。

⇒「多様な考え方の中で、どの考え方方がよかったです」について書く。など

あまりのあるわり算の活用(田中先生から)

$13 \div 2 = 6$ あまり1になる式はどちら？

- A 13cmのソフトキャンデーを2cmずつ切り取っていくと2cmのキャンデーはいくつできますか。
B 13cmのソフトキャンデーを2人で同じ長さに分けると1人分の長さはどれだけになりますか。

★共通点と相違点を整理しながら問題文を読み解くことで、式の意味や図で示す内容の違いに着目でき、自然と対話がうまれるようになる。

算数科第5学年「整数の性質を調べよう」～概念を作り上げる～

問題場面設定の工夫

⇒公倍数で求める必要感を持つことができる。



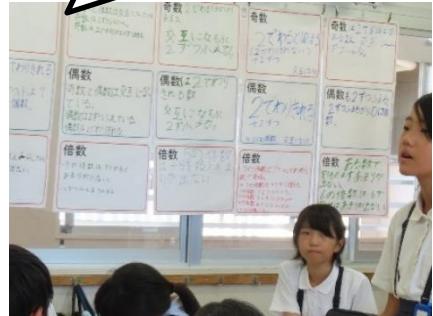
「〇分おきって？」

⇒問題場面を全員が把握してから自力解決ができる。



児童の言葉でまとめた掲示物

⇒「奇数」「偶数」「倍数」の性質を多様な見方から捉えられる。



自分で決めた数で問題を作って解く
⇒問題解決の意欲向上、1時間の学びを整理できる。

自分で「まとめ」を考える
⇒思考を整理し、大切な見方・考え方には気付き、文章化する力の向上を図ることができる。

課題と改善策(グループ協議・田中先生から)

●児童の困り感とめあてを関係付けるために

⇒問題把握の場面での児童の反応を見て変えていく。そのためにめあてを複数想定しておく。

- ①同時に出てる時間をどのようにすれば見付けられる？（方法を聞く）
 - ②どのように整理すれば見付けられる？（方法、手段を聞く）
 - ③2つの倍数が重なるのはどんな時？（倍数、公倍数、最小公倍数の関係を聞く）
 - ④2つの倍数のきまりを見付けよう（最小公倍数を導き出す）
 - ⑤噴水が出る時刻を予想できるか調べよう（2つの倍数の関係を聞く）
 - ⑥本当に次に同時に出てるのか調べよう（そもそも同時に出てる時間が他にあるのか確かめる）
- ※本時では、「本当に同時に出てる時間があるの？」という疑問が出ていたので、⑥をめあてにした方が良かった。

●表や数直線を児童が必要感をもって活用できるようにするために

⇒表や数直線など、児童が必要だと思ってから使えるようはじめから提示しない。

⇒表で表すよさ、数直線で表すよさを言語化する。

「どうして表で表そうと思った?」「どうして12、24…に赤で○をした?」などの切り返し
適用問題で数直線を選んで考えた児童が多かった→「なぜ数直線で考えた方がいいと思った?」

●日直による終わりのあいさつでの振り返りがまとめを読み上げるだけになっていたので…

⇒参考になった友達の意見、大切な見方・考え方など、昨年度の振り返りの視点を活用する。